明治廿七年四月三日印刷
明治廿七年四月六日發行

婦人衛生雜誌

第五拾參號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第五拾三號
目次

講演

●女子のやまひ　醫學士　増田知正君

衛生叢談

●衛生試驗所試驗出願手續
●醫師獸醫産婆に關する警視廳令
●北枕は長生の秘訣
●痘瘡の療法と古來の習慣
●熱海温泉場の衛生規約
●醫術開業及藥劑師試驗
●胃中の電氣燈
●携帶用食品
●食物の調理　●中和鷄卵
●鯛とろゝ　●牛肉汁
●牛肉油煮　●魚類ころもいり
●雜報一束
●大日本婦人衛生會總會
●廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第五拾貳號
目次

講演

●赤痢病に就て　醫學士　賀古鶴所君

寄書

●婦人須知（前號の續）嬰兒の潰瘍○嬰兒の便秘○嬰兒の下痢○綠色便○嬰兒の痙攣症及其豫防○口中の白斑○臍ブルク○嬰兒の眼炎症
●女醫「マリージーボルド」士國に在て目的を達したる事實　女醫　高橋瑞子譯
●胃病に就て　ＴＴ

衛生叢談

●新任内務衛生局長●學習院の禁煙令●嚙爪の癖に關する學術上の研究●恙虫病●男女兩性の別るゝ原因●蓮根のバクテリヤ●ひき付たる時の心得●端坐の害●空堀の注意●乳房と嬰兒●胃中の電氣燈●牛肉の良否を知る十三法●醫師現在數●各種流行病●赤痢病豫防訓令●廣島大分の天然痘●沖繩縣の癩瘋疹流行●露國の虎列刺●諸會況
●廣告數件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第五拾參號
（明治二十七年四月六日發行）

講演

女子のやまひ

（十月十四日於富士見倶樂部婦人衛生會例會）

醫學士　增田知正君演說

大日本婦人衛生會へ出席致しまするのは私は今日が初めてゞござりまするし。又親しく皆樣の御面前に於て、御咄しを致しまする光榮を得ましたのも今日が初めてゞござります今日は寔に初御目見えの日で有りますからして、何ぞ有益の御話しを致し皆樣の御聽を願ひたいと思ふて居りましたが、如何せん本會創設以來の有樣を追想致しますると、既に幾多の星霜を經過致して居りまするゆへ其間には諸大家先生方が御出席になつて、各專門の事に就ていろ〳〵有益の御話しをされましたとは實に幾十回か數しれぬ位にて、或は妊娠中の養生法、產時の注意產褥中の攝生法、或は子兒の保護方、乳汁の飲ませ方等に至るまで、悉く御話し盡されまして最早醫師の方から云ひましても、又た御聞きになつたる御婦人の方に取つても有益といふ有益の事は大抵御咄しになつて居り又御聞になつて居る。サウ云ふやうな次第で有りますから、ソレを悉く御聞きになつた皆樣方は、衛生の事に就ては既に一から十まで悉皆御承知の事と思ひます。故に私どときものが殊更に喋々御咄しを致しまするは、所謂釋迦に說法の如き感も御座いますけれども、實は私は今日初めて御咄しを致しまする事故どふいふ風に御咄し申上げ

て宜しいやら、御話しの工合も分らず、又これぞと云ふ考案もなく、殆ど當惑致しまして、爰に演題未定と掲げて有ります通り前以て演題の御報知も致し兼ねた樣な次第でございます、然るに昨日に至て詰らぬ考へでは有りますけれども漸く少し感じた事がござりましたから、今日は其事を取り摘んで御話し致し夫で御免を蒙らふと存じます。そこで演題は女子のやまひと致しました……少し附會た無理な題では有りますけれど……然し唯女子の病といふと誠に漠然として居ッてなんだか御了解になりますまいが私は玆では決して御婦人の病、假令ば子宮の病とか或は卵巣嚢腫の御話しをするとか或は其他生殖器に就て一つ〲の御話しをするといふやうな譯でなくして、まづ御婦人には大抵どう云ふ時期に如何なる病が起るものかとか其時の病は大凡そどういふ症であるとかいふ樣なる事柄を、ザット御話し仕樣と思ふのであります。

偖て其御婦人の病ひと云ふことを御咄しする前に、御婦人といふ者は男子と何處か違ッた所が有るや否やといふことを一寸御話し仕やうと思ひます。素より婦人の病として別に分ッて居る以上は、婦人には何處か男子と異りたる處が無くてはならぬ筈でございます。男子と婦人とが身體も疾病も全く同一であるならば、決して此病は婦人の病であるといつて、殊更に婦人科などいふよふな專門の科を分て置く必要もない筈です婦人には自然男子とは異りたる所があるからして、別に婦人の病といふやうに部分をして置くので有ります然らばドウ云ふ風に異ッて居るかと云ふに、凡そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世の中に在りと有らゆるものは、動物界植物界を通じて、物には必ず男女の両性が分ッて居ります元より人間は一見したるのみで、男子と女子との區別は判然致しますが、動物などに至るとなか〳〵容易に區別の分らぬものが多く有ります。啻に動物に於て分らぬばかりてなくして甚だしいのは、往時は、人間と動物との辨別が判然せぬと云ふやうな事を申した人が有りました則ち人間の中でも婦人と動物との間には、辨別が分明に立ッて居らぬと申して居る、これは鳥渡聞くと、誠に怪しからぬ不埒至極の事で有りますが、しかし段々其理屈を聴いて見まするとまた無理ならぬ所も有ります。往古希臘に於て、彼の有名なる博物學者のアリストテレスや又有名なるヒポクラーテスなどもさう云つて居りました。ヒポクラーテスの言ふには、婦人は完全なる人間ではない、不完全なる人間であるといふて、即ち婦人をば半人間だといつて居ッた。ソレはドウ云ふ理由であるかと云ふに、婦人は左右の手を同樣に利かせる事が出來ないと云ふ、又婦人の生殖器は男子と違ッて体の内部に附着して居る又男子は温を發起すれど婦人は寒に逢てその作用をせぬなどといふ樣な理屈を並べて、婦人は動物界の者に近寄て居ると言つて居る、併しながら素より是は取るに足らない理屈で……其外まだ色々の理屈を立てゝ男女のからだの區別に就て、喧しく言ッた人が有りました殊に甚だしいのは「女子は人類に屬せずと」いふ樣な論を吐た人さへ有りました然し漸々世の中の開明に進むに從て、解剖學生理學の上から調べまするると、人間と動物との限界は明かに立ッて居る夫れ

のみならず人間には一種「人者の美」といふものが有る、人間の美は所謂人間の特有であッて、外のものには到底習ふ事が出來ないので有ります。即ち人間は人間にて、明かに動物とは違ッたものである。併しソレでも尙ほ或る人は婦人を卑めて、「婦人は男子よりも野蠻に近き人間である」と云ふ事をいつて居る。それは復た何故かといふに、「婦人は其の齒と爪とは以て最も究竟の武器と致せばなり」なかと申して。婦人は何か喧嘩でもいたすと、忽ち口惜まぎれに爪で引掻くとか、齒で噛附くとかするのが特性で有る、ソレゆへ婦人は野蠻人種に近い所のもので有るといふ樣なことをいつて居ります寔に申し樣もなき無禮至極の言でござります。

其れはさて措き人間には必ず精神と云ふものを備へて居ります此の精神の作用は元來腦髓作用の連合に他ならぬことでありますが往時猶はいまだ精神學を哲學者が講釋致して居りました時分には精神の作用と腦髓の作用とは全く關係の無いもので腦は只精神作用の介助を爲すのみのことにて精神は只一定時の間丈腦髓の中に逗留して居るのみの事と考へ、精神即ち魂魄と腦髓とは全く別のもので有ると思ふて居りました。而して其魂が男と女とは違ッて居ッて、男の魂が宿れば男子が出で、女の魂が宿れば女子が出ると言ッて居ッた、即ち人間に男女の別あるは魂の種類に因るのであると申して居りました。併し是れも近來學理上の成績に因りますると、決してサウでないといふことでござります。

ソコでまた考慮と云ふ事に至ると、男子の考慮と

御婦人の考慮とには各異ある所が有りますそれは然らばドンな所に違ひが有るかと云ふには凡そ人々の考慮には自らその深さとその廣さといふとがある即ちそれを男子と女子とに比較して見まするど、どうしても男子の考慮の方が深くして廣い。ソレに反して御婦人の考慮は狭くして淺い。ソレのみならず男子の考慮は緻密で條理が立ち能く連續して居るが、御婦人方の考慮は左程緻密と云ふ所に到らず、而も男子程に整然として連續して往かないやうに考へられます。斯くの如く御婦人と男子を比べると、どちらも同じと云ふ事は出來ない上に、各多少の優劣が有ります。併しその代り感情といふとの點に至ると、男子よりも御婦人がたの方が余程勝ッて居るやうに見える、則ち前とは全く反對であります。

ソレから男子と女子との異なると云ふ事は、前申ます通り、解剖學上及び生理學上の現象に基因致しまするとは今更らいふ迄のともない事ですがこの他にも亦た其區別を幾分か助けるものが有ります、それは何かといふに。則ち敎育であります、男女幼年よりの敎育の結果が大に男女の性質の異ある事を助けて居る何故かと云ふに男子にせよ女子にせよ各々その幼けなき時は唯一寸見たばかりでは男の兒やら女の兒やら、殆ど男女の別が判然せぬ樣でありますが、漸々成長するに從て身體のみならず、精神の作用までが大變に相違して參ります。……則ち是は天然でなくつて却て人工と申しても宜しいのでせうか……男と女とは敎育の程度が全く、違ッて居るのですから、解剖學生理學の學理如何はさて措き、唯其事のみにても自然

と多少は異ッて往く譯であります。これは單り學校に於てのみならず、亦た家庭の上に在ても女子の教育と男子の教育とは全くその方向を異にして居るもので有ります。

又小學校或は女學校を卒業した後に於ても、教育の方法が違ふ男子なれば小學校あり或は普通學を卒業したる後は、尚は進で專門の學問を攻究するとか、或は實業に從事するものあらば、其學び得たる事を實際に應用して尋思推究しその結果より猶は新らしき智識を起し、思想を發達すると云ふ樣に、常に間斷なく精神の作用を鍛錬して居りますが、御婦人は多くは小學校を卒業したが最後それから後と云ふものは、大抵は專門の學問を脩めるといふ事もなく、只家庭に於て尚は双親より相應の教育を受くるとか、なんとか云ふ樣に、精神作用の鍛錬にもまづ制限が立てゝある樣のものですから從て考慮も淺薄普通で男子に比すれば少しく劣ッて居るやうな工合が有るのでございます。

實際其考慮を畜へて置く腦髓を見ますると、矢張り其區別は一見して明かで有ります。往時有名の解剖學者のヒルトルやフッシユケやバルシヤップやブローカーなどといふ大先生方が調べて見られましたに「女子の腦は男子の腦より數「オンス」丈輕しと言はれました、處でダルウヰンといふ人の言れましたには「イヤ女子とても男子に劣けてはかりは居らぬ、婦人とても幼年の時から、男子の樣に腦を働かせて居ッたならば、矢張り男子の樣に發育して必ず男子に劣けぬ樣になるであらう」といふことを言ひました。

御婦人は頭のみならずからだの大きさも重さも男子には及ばない……何だか男ばかりゑらい様な御話ばかり爲るよふですが……美術家なども既に昔から其事を考へて居ッて、人間の身體を割り出すにも、女子の全身は七頭半の割合で男子の全身は八頭の割合としてある。サウ云ふ様に、美術家の標準も男子と女子とは違ッて居る。言ふまでも有りませぬけれども、御婦人の身體と男子の身體とは鳥渡見たのみで分る、御婦人は何處となく總体大變に優くッて、都て身體の周圍にはむつくりと圓みが附いて居る、頭は圓くッて毛髮が大變に濃くて長く、顏は幾分か小さく、鼻は細く小さく口元じゆんじやうにて愛らしく眼は幾分か鼻に寄り額は男子に比すれば平たく顋は男子の如く出て居らぬ、首も男子より細く長く喉佛なども突起せず、胸には大きな乳房があり男子の様には廣からず肩もなぞへに圓くありそれから胸と腹との長さを比較して見ると、胸の方が短くして腹の方が長い。それから美術家なども申して居りますが御婦人の御臍は、男子のよりも上の方に附いて居ります。その他男子は肩巾が廣くて腰巾が狹いが、御婦人は反對に肩巾が狹くて腰の巾が廣い能く昔から柳腰とか細腰とかいふことを美人の形容詞用ゐますが、私はあの詞は婦人の形容に用ゐるよりは、寧ろ男子に附けた方が大に適當であらうと考へます、男は肩巾が廣く腰が狹いから、恰も楔の様な形で、婦人はソレと反對で、丁度それを逆さにしたやうな形になつて居る。ソレのみならず外にも男子と違ッた所が澤山有りますが、一々云ふと余り長くなりますから云ひませぬが、婦人は胸で呼

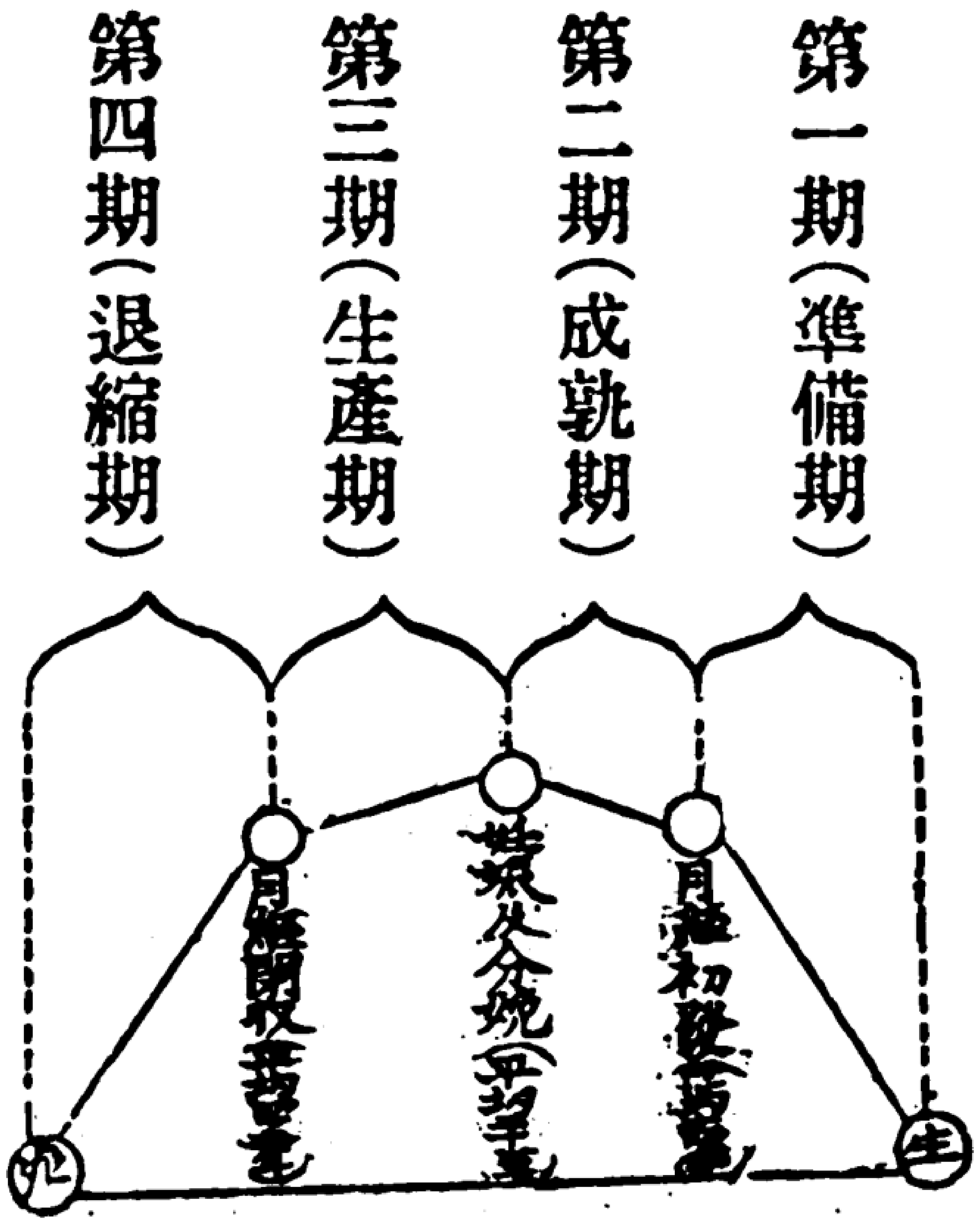
吸をするが、男子は腹でする、婦人の食物を取る事は、男子より大變に少ない、ソレにも拘らず餓や、渇に堪える事は男子よりも強い。婦人の心臓は、男子のよりも狭く厚さも薄くして小さい。併し血液を製出へる力は男子より大さい。且つ出血に堪えやすく又血を失ッても之を償ふとが余程速かであります。次に脈搏も、御婦人の脉搏は男子より細かくして多い、是れは婦人の知覺は大抵過敏でありますから直に興奮爲し易くてそれで數が多くなるのであるかも知れない、又肺の容積と肝臓の容積とを比較して見ると、男は肺臓の方が肝臓より廣いが、婦人は肺臓より肝臓の方が廣い。一寸身體の搆造の上、發育の上又作用の上から申しましても御婦人がたと男子とには前に申す通りの差異優劣が有ります。先づ斯う云ふやうな所から考へて見ても、御婦人は男子には及ばぬ點がどうも多い。其工合を見ても婦人と云ふものは、男子に對しては常に受身の地位に立て働いて居るやうな有様で、男子の方は都て働きかけにやッて居る。實に男子は解剖的生理的元働的の生活を營んで居りますが婦人は之に反して、何處までも受働的の生活に止まつて居るもので有るのでござります。

先づ是れまでは男子と女子との身體の區別の大畧を摘んで御咄し致したのでありますがこれからは女子一方に就ての御話しを仕様と思ひます。

どなたも最早御承知のことゝは思ひますが、御婦人には一生の間に過世免かるゝことの出來ない定まッた三ッの現象が有ります。此三大現象即ち三ッの大役は御婦人の身に取て大變に必要のとであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りまして、此三ッの現象に何か異常の事が起れば、直にそれが病となッて顯はれるもので有り升、それ故此現象に就ては余程注意をしないと啻に身體の健康を害するばかりでなく、甚だしきは病を起し、時としては生命にまでも危險を及ぼすことが御座います此の三ッの現象とは何で有るかと申まするに即ち第一は月經、第二は妊娠、及び分娩、それから第三は月經閉收の三ッで有ります。此三ッの現象の一ッ〳〵は丁度また御婦人一生の經過則ち生涯の生活道中の境にあッて居る全体御婦人の一生の間の經過を分けて見ますると（左に其圖を示す）玆に掲げたる圖の如くに第一期、第二期第三期、第四期といふ樣に四ッの期に分るとが出來る婦人が産れてから月經が始まる迄の間の時期を第一期と致します此の時期は丁度女兒が漸々成長して一前人の女子になるの準備を爲すの時期でありますから之を一名また準備の期と申します。玆で終に月經が始まります月經に次いで、妊娠分



娩迄の間を第二期と申し一名之を成熟の期と言ます月經が附てから猶は追々と成熟して行くの時で

有ます、全然成熟した所で今度は第三期即ち生産期となる此時より新らしい者をどん／＼と産出するので有ります。これから閉收則ち月經か閉止する時が來ます此時よりを第四期と致します、これから先きは死ぬまでの間ですからドの位ゐといつて豫め年月を定める事は出來ませぬが、漸々萎縮して往く期で御座いますから、此時を退縮期と云ひます。

生れてから月經の來る時までは平均十四年間程あります。……併し是れは平均の數でございますから、季候或は土地人情風俗に因て必ず一樣には參りませぬ……準備の期と云ふは前申ました通り御婦人が生れた時から春氣發動期までを云ふ、此時までは女兒と男兒とには左程外に現はれるほどの相違はない殊に一歳未滿の小兒であると能く視ても男と女との見分けが附かぬ位ゐで有る併しなから第一期の末に近寄るに從て男女の境が著しく附いて來る。ドウ云ふ譯であるかと云ふに、此は年を重ねるに從て身体の工合も精神の作用も違ッて來る、幼い中は男も女も同じ樣であるが然し女の兒は智慧の附き方が早く第一期の後半になつて來るに從て、女兒の方は精神の發育が進んで來る、尤もこれは絶へずこういふ樣に續く譯ではない只一定の時までゞ有ッて、或る場合に止まつて仕舞うそして、其後に至ると、男子の方が漸々進んで往くやうな傾向が有ります。一寸しても婦人が十七八位いの年齢に達すると、其容子は宛然春に逢たる櫻花の如く身體の發育も完全し精神の作用も成熟して居ります。併しなから其時分の男子の容子は大にそれと異りて子供に免かれぬ幼

な氣が殘ッて居る女の方はこれで止てしまッて男の方はこれから猶成長して行ます。サウ云ふ樣な工合で、第一期は成熟して往かうと云ふ準備の期です、其の準備が整ふと茲に全く成熟し、始めて月經と云ふことが現はれる。

生後第一の緊要なる現象即ち月經は前にもチヨッ卜申した通り土地、人情、季候風俗等に因て其の來るのに差違が有ます所に因ると、八歳位ゐで月經の現はれる事も有りますが、日本では大概十三か、十四か、十五、先づ平均十四歳强位ゐの時である、此時を或る人は「天然の春」或は「喜悦の時期」などゝ言ました是れから成熟期にならうと云ふ初めで有ります則ちその兆候として生殖器から血液の分泌が現はれるので、有ります。併し此期にあらぬ前、極く小さい時分に於て、殆と成熟期と同じ樣に分泌液を出す事があるが、是れは決して不思議の事では無い生理上正に有るべき事です、言ひ換へて見ますれば、是は則ち早く熟したのです……先づ是等は例外ですが……ソレは兎も角此（成熟期）時にあり月經の現はれるのは、能く準備が整ふたのでございます。人間のからだの生殖器の發育といふものは此時に至るまでは恰も睡眠場裡に在つたものゝ樣でしたが此時期至りて初て醒覺し月經となつて現はれて來たので有ります、月經が付いて來ると、婦人は此時を以て、既にその身體の內に一の生活物を受納めてそれを發育させるやうな作用をしても宜いやうにあつたのです、則ち妊娠を爲し分娩をしても宜いやうになつたので有ります。

月經が付くとからだの工合も今までと一變して參

ッてからだの諸機械は速に發達し各部の組織は鞏固となり、からだは大變に圓滿し乳房はズット張ッて來る、毛の生へべき所には、毛が生へて來ますなどそれは〳〵諸所の發育は非常に早くなつて來る者です、此の月經の一來一往は御婦人の生活には最も必要なる機能でありまして若し一朝ソコに異常が有るとでも有ましやうか、先刻申す通り健康を害し、或は病氣を惹起すといふ樣なとが起ッて來るので有ります。尤も重な病氣をやッた後で月經の變調を來すとも往々有るもので有ります。

前に言ふ如く、組織が固くからだの機械が完全して來たならば則ち發育か充分で營養の良い人であつたならば、婦人は最早此時から妊娠する事が出來ると見做して可い者で有ります併し月經の付いた時から妊娠するまでには、一定の時期があるもので有ッて月經か附た其時に直ぐ妊娠をすると、恰も未だ十分に熟しきらないものが、妊娠したやうな者であるから、その結果は不充分で有ります。此圖に示しく置ました通り月經と書いてある所より分娩と云ふ所までは、坂で申せば登ッて行くやうなもので、此時分則ち月經初發の時分まではまだなか〳〵充分に成熟しては居らない。尚は一層成熟して十分の妊娠分娩の出來るやうになるまでには猶ほ一定の時が必要である其時とは、即ち平均二十歲位ゐの年齡に達するの時である。併してれも其人の發育と其國の風俗等に因て違ひますから、一定する事は出來ませぬ。そこで先づ平均十四歲に月經が現はれて、妊娠分娩を二十歲とすれば、則ち其間六ケ年だけ成熟して來たのでありま

す。蓋し日常吾々婦人科醫の目擊する患者にして或は局所病を有せるとか或は一般症の異常に罹かれるとかいふ者の内の或る一部分は其原因實に早婚に在るのがある樣で有ります。充分に成熟しない中に結婚して、ソレが爲めに恢復す事も出來ない樣な狀体に陷るものが往々有ります。實以て斯う云ふ事は吾人が御婦人方に向つて切に御注意する所のことで有ります。殊に世間女子を有せる母親たる人に對して深く其の不心得を諫めさる可らさるの點で有ります。

偖て充分に成熟し結婚しそこで受胎即ち姙娠といふ事になります則ち第二の緊要なる現象が來た譯にて此時より生產の期が始まるのであります此時に至ツて姙娠するとからだの、狀態は全く異なつて來るので有りまして啻に姙娠した局所が其容積を增すばかりでなく、一体に身體の容子が、ちがッて來る乳なども大變に大きくなつて下の方に垂れて來る。又各所の皮膚にも色素の沈着が起つて來る。ソレはかりでなく神經系統にも多少の變調を來すものにて時には著しき病的變狀を呈すよふの事もあります則ち神經の知覺に變狀を來すが故に輕きは輕度の衝動より重きは以て危篤の強直性若くは間代性の痙攣を起し我邦には余り有ませぬが舞蹈病や癲癇などをも發するとが有ます夫のみならず精神症狀にまで變調を來し或は物の擇り嫌ひをしたり、或はしきりに氣か浮き立たり或は鬱憂症を起すとかいふよふないろ〳〵の異た事が發します、若しサウ云ふ樣な大なる變狀か起ッて來ると、無論子宮にも異狀を起し胎兒の發育、乳汁の分泌にも障碍を起して參る樣の事も有りま

す健康なる御婦人の生活は爾後殆んど受胎—妊娠分娩—受乳—月經といふ樣に一定時の間同し機能を繰返し〳〵行ものにて四十五六歳迄といふものは其の儘に經過するもので有ります。

前に度々述ました通り月經の初て來る時を平均十四五歳と致しますと其後月經の來往する間は平均大略三十年間と致して居りますから丁度四十四五歳に至て月經閉收といふ順になります、則ち是より退縮の時期が始まり第四期の時代となつて參ります此の時期は蓋し生殖器が萎縮の變化を受け機能不隨となりましたる結果に他ならず、それ故に此の時に當ては生殖器は都て萎縮し組織は變じて硬くなり血行なども緩漫となり月經も排卵機も共に休止して仕舞ひ殆んと男と同じ樣な工合に爲ります。

斯いふ風に婦人の一生は四期に分れて居て此の關係は最も注目すべき價値のある者で有ります、即ち男子と女子との生活の差異の上に於て極めて奇異なる感情を惹起さしむるもので有ます。今申す通り婦人は四十四五年位で月經が止る即ち生殖機能が無なつて仕舞ふ此の年齡に達すると、婦人は殆ど不用物になつて來る即ち世間に用ゐられぬからだとなつたと思ふても宜しうございます。併し男子の方であれば、ドウかと云ふに男子は四十五歳位ゐの年齡は未だなか〳〵盛の年紀で有ッて、どん〳〵世の中に出て種々の仕事もしなければなりませぬ、又其生殖機能もどうしてなか〳〵盛の時で有りまして隨分此位の年齡に及んで始めて伉儷を擇ぶといふ樣なとは日常能く吾々の耳目に觸るゝ處でありますが實に同じ人間で有りながら男女

の間に斯くも相違の有るといふは造化の依怙も餘りといへば聞えぬ仕打といつても宜い位ゐで有ります。元來男子の生殖機能はなか〱盛なものであつて其身体の健康なる限りは決して永く休止するものに非らずして時には齢百歳に垂んとする白髮の老翁にして尚ほ子を生ずる事は餘り稀でも無いといふやうな有様であります。

女子の生殖機能が閉止する時は從て生理的及病理的變化を來すものにて先づ月經が止むと女子といふ性質が變じて漸々男子に似寄ッて往くもので有ります。實際其證候はからだの上に於ても已に現はれて來ます例えば今まで生えたとのない髭がだん〱生えて來るとか、細かりし聲もだん〱太くなるとか、ソレのみならず精神の發動も一變して柔和なりし人も荒々しくなるとか、酒を飲まなかつたものまでが酒が好きになるとか、或は是れまで精神の爽快なりし人が欝悒の症を起すとか云ふ樣になる者であります――ホーキン氏の調査に據りますると此の性の關係は女子精神病の源因に大なる影況を與ふる樣に思はれます爰にその表を掲げて御覽に入ますが此は大分古い表ですから必ずしも當にあるといふ譯には參りませぬが一寸御眼に掛けて御參考に供します。

發病事項	男	女
病	二三六	―
姙娠	―	一八九
月經閉止及月經不調	―	六九三
手淫	五二	一〇一
ヒステリー	―	一一六
名譽心	一三四	―
宗教	五四	三〇
戀情	七六	一八

天災	一二三	八七
憤怒	一一五	一〇七
政事上事件	七八	｜
恐怖	｜	四四

（以下次號）

衛生叢談

◉衛生試驗所試驗出願手續

東京大坂及横濱の各衛生試驗所の試驗を請はんとする者にして其手續の不明なるより之を問合せ來ること常時甚だ多きのみならず試驗品採收法の不完全若くは其意の不充分等より徒に無益の手數を費し或は試驗の目的を指定せざるが爲に無要の手數料を支拂ふ等錯誤煩累に渉ると寡からざる由なるが今其試驗出願の手續並に從來の出願品中最多數を占る者に就き其採收法及用量等を聞くに

一試驗手數料は登記印紙を以て納付する者とす其手續は試驗の要點即ち目的を明記したる試驗願書に之に要する手數料相當の該印紙を貼付し出願者記名の下に押捺する印章を以て印紙の右肩を半は願書面に掛けて消印し試驗すへき原品を添へ差出すへきこと

但し製造品の如きは成るへく其製方書を添ゆへし

一飲料水及礦泉の容器は玻璃壜又は磁製の壜に限る其採酌法は試驗すへき水を以て再三洗滌したる清淨の壜に新鮮なる水を採酌し少しく空隙を存し新しき「コルク」栓を以て密閉するを要す

一黴菌試驗用の水を容るゝ器は特に同所に於て消

毒したるものを貸與すへし
一礦泉に於ける醫治效用の有無は定量分析施行の上にあらされは豫め判然せさるを以て其試驗願書には先つ定量分拆の手數料に應する登記印紙のみを貼用し醫治效用附記の願書は同所の通牒を受けて後更に差出すへし
左表中の手數料は唯標準を示すものあるを以て場合に依り增徵することあるへし

試驗目的	試驗用量	試驗手數料
(水)		
飲料適否	凡そ一升	五十錢
化學的試驗		三十錢
黴菌學的試驗		二十錢
硬度	凡そ五合	三十錢
(氷雪)		
飲料適否	二斤以上	三十錢
(鑛泉)		
一成分の定質分析	五合以上	五十錢
一成分の定量分析	一升以上	一圓
完全定質分析	凡そ五升	二圓
完全定量分析	凡そ一斗	四圓
醫治效用		一圓
臨場試驗		官吏出張規則に據る
(乳汁)		
普通定量分析	三合(人乳は五勺)	一圓五十錢
脂肪定量分析及比重	三合(人乳は五勺)	三十錢
(煉乳)コンデンスミルク		
普通定量分析	一罐	二圓
一成分定量分析	一罐	二拾錢乃至一圓五拾錢
(和洋酒類及銘酒類)		
普通定量分析	凡そ一升	三圓
亞爾箇保爾定量	五合以上	五十錢
防腐藥有無鑑定	五合以上	七十錢
(醬油)		
普通定量分析	凡そ一升	三圓
(食鹽)		
普通定量分析	五合以上	三圓
(顏料、色素)	二匁以上	廿錢乃至三圓
(化粧品)		
衛生上害否	十匁(液類なれは五勺)	五拾錢乃至一圓
(肉類及其製品)		
普通定量分析		二圓
(菓子類)	半斤以上	二圓

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

普通定量分析　凡そ二十匁　二圓五十錢

（鑛物及金屬）

一成分の定質分析　鑛物は凡そ三十匁金五十錢以上

一成分の定量分析　金屬は凡そ五匁金一圓乃至五圓

⑭醫師獸醫産婆に關する警視廳令

昨日警視廳令第五號を以て「醫師獸醫産婆を業とする者出張所を設くるときは設置の場所並出張時間外に於て其業務を代理する者の住所氏名を記し二十日以内に所轄警察署又は警察分署を經て警視廳に屆出づべし其出張所を移轉又は廢止し若くは代理者を換へたるとき亦同じ、從來出張所の設けあるものは本令施行の日より二十日以内に前項の手續に依り屆出づべし本令を犯したるものは二十錢以上一圓二十五錢以下の科料に處す」との旨を達したり

⑮北枕は長生の秘訣

世俗北枕を忌みて避くることあれ共或學者の說によれば是れ僻事の亦尤も僻事なるものあり此程歐洲に百七歳の壽を以て終れる醫師あり死去の前或人に向ひ其長生の秘訣を語りて云ふには秘訣とて別にもあらず唯毎夜寢ぬる毎に必らず頭を北に足を南に向けて寢ぬるにあり一躰磁石的潮流の北の方に向つて流るゝこと夜間は晝よりも一層盛なるものにて而して此磁石力の流れが人躰に影響を及ぼすことは今更言新しく言ふ迄もなく已に千七百六十五年日耳グッチンゲンに於て醫學士クラヒリッは患者の齒痛を治するに常に患者の顔を北に向けさせ然る後磁石棒の南端を以て痛みある齒に觸れて斯くて之を瘥せることもある程なれば夜間寢に就くにも頭を北の方寧ろ少し東によりたる方に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

向けて寢ぬれば躰は十分此磁石的潮流の感化を受けて美睡の便りあり從て健康從て長壽に益ある可しと(改進新聞)

●痘瘡の療法と古來の習慣

古來我邦にて小兒などの痘瘡にかゝるときは着物より頭に蔽ふものまで悉皆赤のキレを用ふるの習慣ありしが右は醫學上より見るも最も効驗ありとの事なり其は痘瘡患者を暗室或は赤(全然)室に入れて毫も身体に化學的光線を觸れしめざるときは決して膿を釀さず且つ瘢痕を結ばざるものなりと奇と謂ふべしと

●熱海温泉場の衛生規約

熱海の各温泉客舍は客冬協議の上規約を設けて町内衛生法を定めたるか要は道路、芥溜、下水、河川、海岸の淸潔飲料水道水源、貯水、池、水槽の掃除及び男女の混浴禁止等ありと

●醫術開業及藥劑師試驗

本年第一回の同試驗の日割を聞くに醫術試驗は東京府下に於て四月十日より五月三十一日迄京都府下に於て七月七日より同月廿六日迄長崎市に於て四月十七日より同月三十日迄藥劑師試驗は東京市に於て六月六日より同月廿六日迄大坂市に於て五月廿八日より六月十一日迄ありと

●胃中の電氣燈

と題して本月十日の雜報欄内に北米合衆國メーリーランド州ボールチモール府内科及外科大學校に於て胃中に電氣燈を點し以てその内部を觀察したる旨を掲載せしが是は獨乙抔にては既に二三大家の試みたる處にして過般歸朝したる長與稱吉氏の如きは之を實見したりとそれが爲め歸朝早々その

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

機械を獨乙に注文したる由なれば日本人の胃中に電氣燈を點せらるゝに至るも近々の内ならんと時事新報に見えたり

◉携帶用食品

大陸横行等の携帶用食品には砂糖、鰹魚節、鷄卵、佃煮、スルメ、鮑、鯒、田螺の乾物、乾酪、乾葡萄、ビスケット、牡蠣、乾柿、葛粉、燒鹽、乾菓等を携帶するをよしとすれども特に必要なるは糒なり白米一斗を糒とすれば容量甚だ減して二貫四百匁となるを以て能く永日の間糧食なきの地を通過し得べしといふ

◉食物調理

食物の調理法は其品質の性分多少價格の如何を考へ衛生的調理法をなすを以て目下の急務とするところにして多少の考案も存すれども夫れは後日に讓り今其普通なるもの二三を擧ぐ

◉中和鷄卵

何魚にてもよろしといへども鯛を以て上品とす先つ鯛の身をよく摺り鷄卵を入れて能くとき小杓子にてすくひ薄き鍋にて程よく燒くなり此内へ已が好む香料を入るゝも亦可なり

◉鯛とろゝ

山の芋は滋養に富むものにして効能いちゞるし、さて鯛とろゝの製法は先づ山の芋の善きを撰みおろして摺鉢にて能く摺り鯛の身を蒲鉾の樣にすり芋と交せて煮出しにてときとろゝとなすへし藥味には葱海苔唐がらし等すき〴〵なるべし又とろゝの嫌ひなかたはすりいもにして食ふべし滋養の効多きこと他の物にまさる

◉牛肉汁

先づ牛酪を鍋に入れ火に載せ細かに切りたる葱を入れ鳶色になる頃牛肉を入れ胡椒と塩とを加味し水を入れ弱き火にて十五分間計り煮再び又水を入れて一時半程煮其浮き上りたるきらを取り其汁を篩にてこし總ての汁に用ゐるなり

●牛肉油煮

牛肉を細かに切り庖丁の背にて能く〱叩き油煮鍋にて少し牛酪を解かし之れに前の牛肉と塩、胡椒及薄く切りたる葱なとを入れ火に載せて其茶色になるまでを之をよく煮させて一と先づ此牛肉葱等を取り上け其跡の汁へ温飩粉を少し入れ又其茶色になりたるころ塩を加へ水を少し注ぎ煮立ちたる後其汁をこしさめぬ内前の肉にかけて食ふべし

●魚類ころもいり

先つ牛酪及少し許りの葱を細かに切りて之を鍋に入れ炙りて葱の鳶色になるを待ちて何魚に限らず宜しき魚の蒸したるものに温飩粉に卵を解きたるものにてころもにつゝみ之れに醤油及胡椒煮出し柚の汁等を加へのろき火にてよく油にていり付け煮て其熱きところを食ふべし

●雜報一束

◎脚氣　逐日暖氣相增し人をして怠氣を生せしむ此時に當りて飲食を節し勉めて歩行運動をなさゝれば脚氣の症を免れ難し

◎大磯の衛生會　松本順氏を始め外數名發起となりて同會を開設すると云ふ

◎鱈卵の中毒　神田皆川町人力車夫吉村某は妻子と共に鱈の卵を貰ひ一ッは焼き一ッは煮て自分は丸で一ッを食し妻子は其半分を食ひしに俄に腹痛を起こし苦悶の末遂に死去したり妻も又同

様腹痛を起こすに至りしか之は幸ひにして一命には別様なかりしといへども食物には注意緊要

◎人類起原　人類學者ブリントン曰く人類の先祖は固と高等有乳獸即大猿の進化しなるものなりと又某伯は曰く狸の進化なりとアハ

◎初虎列剌　神戸東川崎町辨當業吉田某貞性コレラに罹る之を本年の初コレラとす御用心〳〵

◎五兒出生　三ツ子を產むさへ稀なるに米國フキラテルフキヤ洲の西部に住するダビット某の妻は女兒を三人男兒を二人都合五人を一時に分娩し母子共に壯健なりといふ人類にして斯く多く產みたるは實に前代未聞とや云はん

◎漢醫伯及吉雄圭齋氏逝く　漢醫伯淺田宗伯氏は漢醫の大家なるが兼てより病氣の處去月十六日死去せり又吉雄圭齋氏は本邦へ種痘を初めて傳へたる開祖なるが去月十六日溘焉死去したりといふ

◎奇異の少女　石洲松山の少女全身毛髮を生じ聲猿の如く好で山林に遊ぶといふ山師之を二百圓に買はんとするも父子の情之を賣り渡さずと云ふ人類起原の說と對照すれは、オカシ、

◎大日本婦人衛生會總會

三月三日午後一時より麴町富士見町富士見倶樂部に於て總會を開くドクトル伊澤信平君には乳齒出齦期發病の話と云へる演題にて外觀診斷の養生法に就き演說せられ醫學士千葉稔次郎君には婦人の不幸と云へる演題にて婦人病に於ける注意を促し右終り事務及會計報告及役員改撰あり茶菓の饗應ありて散會せしは午後五時頃なりしが當日の出席會員大凡三四十名なりき

役員改撰の結果左の如し

會長 土方かめ子	副會長 濱尾さく子
幹事 西　清子	幹事 馬渡　玉子
仝 加藤　恒子	仝 南部　隈子
仝 北澤　信子	仝 濱田すて子
仝 佐々木芳子	
評議員 西　升子	評議員 榊　幸子
仝 緒方　悦子	仝 大澤　作子
仝 加藤　鈴子	仝 原田　時子
仝 長與　園子	仝 高木　富子
仝 中村　春子	仝 岡田　德子
仝 中濱　芳子	仝 丹波さた子
仝 宮本　樂子	仝 平田よし子
仝 中野　悦子	仝 鳩山　春子
仝 三宅　藤子	仝 仁禮すが子
仝 片山かめ子	仝 菊池いち子

廣告

◎婦人衛生會に於ける収支決算左の如し

自明治廿六年九月至明治廿七年二月収支決算

收入

金三百五拾七圓四拾六錢五厘

支出

一金九拾四圓五拾錢	雜誌印刷料
一七圓四拾八錢	諸印刷料
一金二圓六拾錢	會場費
一金拾壹圓廿八錢	郵稅
一金參圓八拾參錢	通知はかき
一金拾二圓	速記料
一金二拾五圓五拾錢	會費集幷雜誌及通知配達手當
一金參圓六拾錢	切拔通信料
一金參圓八拾七錢九厘	筆墨紙料
一金二圓四拾錢	器具料
一金四拾二圓	編緝幷事務手當
一金五拾五圓四拾六錢三厘	懇親會入費
一金七圓〇六錢五厘	総會幷初會入費
一金八圓拾錢	雜費
一金七拾圓	三井銀行預金

合計參百四拾九圓六拾九錢七厘

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

收支差引殘高金七圓七拾六錢八厘

金貳百圓　三井銀行預金額

◉三月より四月に至る入會

◉地方會員武富すみ子の紹介により

神奈川縣相摸國横須賀中里二百十番地　通常會員　清水ふき子

◉終身會員石崎つる子の紹介により

岩城國信夫郡福島町大字曾根田廿番地　終身會員　油井あか子

岩城國信夫郡福島町二丁目七十四番地　通常會員　阿部こと子

◉通常會員矢守艶子の紹介により

京橋區中橋廣小路十六番地　通常會員　野澤定江子

牛込横寺町二十九番地　通常會員　板倉藤子

日本橋區南茅場町十二番地　通常會員　芦田みさほ子

◉通常會員四條春子の紹介により

赤坂區福吉町二番地　通常會員　山口春野子

◉評議員中野悦子の紹介により

赤坂區田町七丁目一番地　通常會員　磯村幸子

◉會員深和ふみ子の紹介により

芝西久保八幡町九番地　通常會員　近藤ともを子

◉事務所へ申込により

下谷練堀町十二番地　通常會員　須田すゞ子

第一醫院　大石こう子

◉幹事加藤つね子の紹介により

芝西久保巴町卅九番地　通常會員　園田鏈子

◉特別會員安達芳子の紹介により

筑前鞍手郡新入炭坑通常會員　松田壽衛子

福岡縣福岡鑛山　通常會員　中村夫人

◉通常會員横內いは子の紹介により

伊勢國一志郡豊地村字下之庄　通常會員　杉原せい子

◉會員立石靜子の紹介により
第一醫院　船橋すゞ子
◉會長土方龜子の紹介により
牛込區鷹匠町六番地　通常會員　永治貞子
麴町紀尾井町三番地　通常會員　金澤隆子
◉通常會員白川可壽子の紹介により
府下荏原郡大森村字立石
通常會員　太田さか子
芝區愛宕町二丁目十四番地東京病院内
通常會員　西山春尾子
◉通常會粟武子の紹介により
山口縣長門國赤間關市西端町
通常會員　多田滿瀬子
◉通常會員山田粂子紹介により
麻布霞町一番地　通常會員　玉利のぶ子
麻布霞町二十二番地仝　玉利和哥子
◉通常會員立石靜子の紹介により
第一醫院　內藤ゑい子

轉居

麴町一丁目二番地へ　松本竹代子
上駒込舊朝日山王社傍へ　飯島夫人
下谷車坂町十番地郡玉社へ　横内いわ子
備中淺口郡船穗村柳へ屋賛成員　山川春二君
芝新錢座へ　檜山たね子
京橋三十間堀二丁目九番地　新山つね子
京橋弓町十九番地　福田きね子
神奈川縣下横須賀汐留五十四號官舍へ　武富すみ子
下谷竹町十三番地小坂方　深和ふみ子
麴町區麴町七丁目二十番地へ　近衛貞子
芝西久保神谷町廿八番地へ　古澤ますへ子
麴町元園町二丁目六番地へ　高崎うた子
本郷西片町十番地れノ廿四號へ　呉みを子
赤坂丹後町一番地へ　和田えい子
芝烏森町一番地へ　青木よし子
下谷西黒門町二十二番地へ　神羽りう子
高知縣幡多郡古津賀村へ　野置三種子
本郷西片町十番地ろノ十三號へ　中濱芳子
南豐島郡内藤新宿御料地内官舍　福羽禎子
淺草向柳原町十一番地へ　荒巻つね子

退會者

豐住好子　關辰江子　塩崎せい子
本外よう子　猪狩ます子　田野增子

上田うた子　石井伊勢子

死亡　小谷千世子

◉婦人衛生會會員住所姓名

總裁　小松若宮御息所殿下

會長　子爵夫人　土方龜子

副會長　濱尾作子

幹事　西清子

仝　馬渡玉子

仝　加藤恒子

仝　南部隈子

仝　北澤信子

仝　濱田すて子

仝　佐々木芳子

評議員　西升子

仝　榊幸子

仝　緒方悅子

仝　大澤作子

仝　加藤鈴子

仝　原田時子

仝　長與園子

仝　高木富子

仝　中村春子

仝　岡田德子

仝　中濱芳子

仝　丹波さた子

仝　宮本樂子

仝　平田よし子

仝　中野悅子

仝　鳩山春子

仝　三宅藤子

仝　仁禮すが子

仝　片山かめ子

仝　菊池いち子

◎終身會員（姓名いろは順）

本郷湯島三組町八十六番地　石崎つる子

山形縣西村山郡新宿村　今井政乃子

小石川金富町三十三番地　濱尾作子

小石川音羽町七丁目十番地　鳩山春子

京橋築地三丁目四番地　花房千鶴子
駿河臺北甲賀町四番地　西村せつ子
京橋三十間堀三丁目十七番地　西ます子
麻布市兵衛町一丁目五番地　田中とら子
麻布竹屋町六番地　高平淸子
麴町中六番町　高木くら子
横濱大網山　高島くら子
本鄕弓町二丁目二十番地　丹波さだ子
小石川水道町　子爵夫人　田中すま子
京橋西紺屋町十番地　高木とみ子
愛知縣春日井郡中小田井村　松澤たつ子
岩城國信夫郡福島町大字曾根田廿番地　油井なか子
大坂控訴院官舍　北畠三枝子
小石川水道町二番地　三井すて子
麴町一番町一番地　子爵夫人　土方かめ子
麴町永田町一丁目　森寛子
茨城縣鹿島郡鹿島町　布施正顯君

◎特別會員

麴町三番町三十二番地　飯田たつ子

小石川原町百二十五番地　長谷川なか子
麴町裏霞關八番地　林操子
芝三田綱町十番地　子爵夫人　仁禮すが子
本鄕弓町一丁目十一番地　岡田とく子
赤坂靈南町二十番地　押川ひろ子
上二番町四十四番地　加藤すゞ子
麴町五番町十四番地　加藤恒子
小石川茗荷谷三十三番地　片山かめ子
下二番町四十一番地　吉武輝枝子
麴町元園町二丁目六番地　高崎うた子
日本橋元大工町九番地　高橋瑞子
京橋南金六町九番地　田中みちへ子
小石川小日向臺町二丁目十六番地　曾禰しん子
麴町五番町十二番地　中橋ゑつ子
京都上京寺町通廣小路　村岡久野子
四谷元鮫ヶ橋町五十六番地　伯爵夫人　松平充子
麴町平川町六丁目　葦原のぶ子
神田北甲賀町十四番地　子爵夫人　秋元宗子
筑前鞍手郡勝野炭坑　安達よし子
上野花園町十一番地　男爵夫人　赤松貞子

本郷西片町十番地　榊　幸子
京橋弓町四番地　瀧澤よし子
麹町有樂町三丁目一番地　圖師さ代子
麻布飯倉二丁目七番地　末川すみ子

◎贊成員

麹町永田町一丁目十七番地　伊東方成君
牛込揚場町十七番地　石黒忠悳君
新潟中蒲原郡大淵村字西野　伊藤房吉君
麹町飯田町三丁目二番地　濱田玄達君
神田南甲賀町十番地　原田豊君
小石川金富町三十三番地　濱尾新君
赤坂新町三丁目十五番地　萩原彌四郎君
京橋三十間堀三丁目十七番地　西　周君
本郷東片町百十六番地　緒方正規君
向島洲崎町百八十一番地　大澤謙二君
日本橋小傳馬町三丁目　大竹茂吉君
本郷弓町一丁目十一番地　岡田和一郎君
山形縣山形八日町　晉山金五郎君
麹町富士見町六丁目十五番地　渡邊三平君
麹町上二番町四十四番地　加藤弘之君

麹町五番町十四番地　加藤照麿君
麹町飯田町六丁目　樫村清徳君
神田小川町五十一番地　賀古鶴所君
京橋西紺屋町十番地　高木兼寛君
芝伊皿子町七十五番地　高山紀齋君
麹町永田町二丁目廿八番地　男爵　高崎正風君
本郷弓町二丁目十四番地　辻　新二君
大坂東區谷町一丁目　筒井信廣君
麻布本村町四十七番地　南部甕男君
麻布宮村町六十七番地　長與專齋君
本郷西片町十番地　中濱東一郎君
牛込白銀町十九番地　名川徳太郎君
青山南町七丁目三番地　長井長義君
三重縣津市北堀端　中里格助君
石川縣金澤市石坂與力町卅三番地　中村順次君
京都上京寺町通廣小路　村岡範爲知君
美濃國本巣郡長嶺村　村瀬清直君
麹町下六番町五十二番地　馬屋原彰君
三重縣津市塔世西浦　梅村甚太郎君
三重縣津市西町三十三番地　野口安次君

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

福井縣武生病院　窪田宗太郎君
麴町有樂町三丁目二番地　山田大路元安君
岡山縣備中國淺口郡船穗村柳屋　山川春二君
麴町上二番町四十四番地　八木吉六君
芝三田二丁目十四番地　松山棟菴君
三重縣津市立町　山内養順君
神田仲猿樂町十七番地　山谷徳治郎君
麻布東町二十四番地　後藤新平君
本郷眞砂町二十八番地　足立寛君
駿河臺北甲賀町十番地　子爵　秋元興朝君
三重縣津市玉置町　朝川順三君
本郷西片町十番地　榊俶君
神田北甲賀町十番地　佐々木政吉君
神田猿樂町　佐藤三吉君
日本橋濱町三丁目一番地　齋藤澤吉君
相州厚木町　齋藤正兵衛君
日本橋元大坂町十三番地　佐藤重三君
品川大横町　齋藤清文君
熊本縣益城郡小川町　齋藤宗愼君
本郷元町一丁目三番地　岸田松二郎君

福岡縣那珂郡春吉町八十四番地　木戸麟君
神田雉子町三十番地　宮本仲君
麴町有樂町三丁目一番地　水崎保祐君
京橋因幡町七番地　宮下俊吉君
小石川竹早町八十一番地　三宅秀君
麴町飯田町四丁目十八番地　弘田長君
滋賀縣大津市　平井政遒君
青山南町五丁目五十番地　本尾敬三郎君
四ッ谷坂町一番地　鈴木宗玄君

◎通常會員

い之部

麴町有樂町三丁目一番地　石河里子
麴町永田町二丁目七番地　巖谷もと子
麴町永田町一丁目十七番地　伊東ゆき子
仝　伊東八重子
麴町二番町卅一番地　井上むつ子
麴町内山下町官舍　伯爵夫人　井上夫人
麴町元園町一丁目七番地　板谷琴枝子
神田甲賀町九番地　池田きね子

神田三崎町三丁目一番地　伊藤喜美榮子
神田東龍閑町　印東美知子
京橋築地三丁目八番地　池田よね子
京橋桶町二十六番地　石崎びさ子
京橋瀧山町十番地　石川さた子
芝公園十一號　嚴谷きみ子
芝高輪東町卅八番地　子爵夫人　伊東ちせ子
芝巴町三十一番地　伊東ゆう子
芝伊皿子町五十番地　伯爵夫人　伊藤梅子
芝三田豊岡町六十番地　石尾さよ子
芝田町七丁目六番地　今村家壽子
麻布鳥居坂町二番地　今井政子
麻布一本松二十三番地　今井幸子
麻布笄町百四十八番地　岩橋とき子
麻布田島町五十九番地　伊知地ひろ子
麻布永坂町一番地香蘭女學校　磯部ろよ子
麻布山本町三十二番地　伊集院とよ子
赤坂福吉町二番地　公爵夫人　一條良子
赤坂田町七丁目一番地　磯村幸子
四谷坂町九十番地　稻垣かつ子

牛込五軒町四十二番地　伊藤こと子
牛込砂土原町二丁目一番地　伊東富子
牛込横寺町二十九番地　板倉藤子
本郷曙町十六番地　岩永さと子
小石川指ヶ谷町盲唖學校　石川さの子
本郷元町六十二番地　井原かそ子
本郷曙町十六番地　今村末子
本郷湯島天神町一丁目九十四番地　今田初子
上駒込朝日山王社傍　飯嶋夫人
本郷富士前町三番地　伊知地ひさ子
下谷東黒門町九番地　犬養かつ子

は　の　部

麹町飯田町三丁目二番地　濱田すて子
麹町上六番町二十六番地　橋本ちせ子
麹町内幸町　侯爵夫人　蜂須賀隨子
麹町富士見町五丁目十三番地　馬塲さた子
神田駿河臺南甲賀町十番地　原田とき子
神田駿河臺南甲賀町八番地　原八重子
日本橋北鞘町二番地　林つる子
芝公園二十四號　橋口清子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

赤坂氷川町四十五番地　波多野純子
赤坂一ッ木町八十一番地　羽田三緒子
牛込山伏町二丁目二百九十一番地伴　ます子
小石川林町四十四番地　濱きん子
下谷龍泉町百四十八番地　原れい子

にノ部

京橋三十間堀三丁目十七番地　西きよ子
牛込仲町三十五番地　仁尾繁子
京橋三十間堀二丁目九番地　新山菊子
芝愛宕町二丁目十四番地東京病院　西山春尾子

はノ部

麴町下六番町四十六番地　穗積まつ子
神田淡路町一丁目三番地　星野貞子
神田淡路町二丁目四番地　本多文子
神田五軒町二十番地　堀ちま子
京橋釆女町十二番地　堀越科子
麻布富士見町　男爵夫人　本田うめ子
牛込築土前町十四町地　保利こう子
牛込拂方町九番地　穗積うた子

へノ部

麴町富士見町四丁目十六番地　別役ゆか子

とノ部

麴町大手町印刷局官舍　得能純子
芝白金三光町土筆ヶ岡　朽原靜子
麻布新網町一丁目三十番地　徳田糸子
赤坂氷川町五番地　徳富靜子
四ッ谷左門町六十五番地　土井榮子
本所小梅町一番地　侯爵夫人　德川夫人

りノ部

麴町元園町二丁目六番地　李家みや子

おノ部

麴町隼町三十六番地　小田松子
麴町元園町一丁目二十三番地　小山田かち子
麴町上六番町十七番地　岡村きよ子
麴町三番町七十四番地　岡村靜江子
麴町元園町一丁目四番地　岡野幾子
麴町永田町　伯爵夫人　大山捨松子
日本橋小網町四丁目五番地　大森八重子
京橋銀座一丁目二十三番地　岡崎きよ子
京橋南鞘町　生沼さと子

京橋木挽町九丁目卅三番地　岡田ひて子
芝公園六十九號　大野はる子
芝愛宕下一丁目四番地　折橋源子
芝南佐久間町二丁目十五番地　大谷ひさ子
芝櫻田町十九番地　太田龍子
麻布永坂町六十五番地　小倉すゞ子
麻布狸穴町五十七番地　尾崎つね子
麻布飯倉片町二十七番地子爵夫人　大河内みね子
赤坂靈南坂町二十四番地　沖きよ子
赤坂表町二丁目十三番地　大久保きみ子
赤坂丹後町一番地　小鹿島ふて子
四谷右京町十三番地　尾崎いと子
小石川大塚町六十二番地　大谷みつ子
牛込北山伏町四十五番地　沖野りう子
本郷東片町百六十番地　緒方ゑつ子
本郷龍岡町二十五番地　岡山とし子
下谷徒士町一丁目四番地　大森くめ子
下谷仲根岸四番地　岡倉重戸子
下谷練塀町四十三番地　太田幾子
浅草新森田町二番地　大谷嘉知子

向島須崎町八百十一番地　大澤作子
荏原郡大森村字立石　太田さか子

わノ部

日本橋茅場町四十九番地　渡邊よね子
芝三田一丁目卅五番地　渡邊みつ子
赤坂丹後町一番地　和田えい子
小石川跡見學校　鷲田菊江子
下谷二長町五十二番地　和田福子

かノ部

麹町下六番町四十七番地　金井たけ子
麹町飯田町三丁目二十九番地　神田熊千代子
麹町富士見町六丁目三番地男爵夫人　神山まさ子
麹町飯田町六丁目　樫村ゑい子
麹町紀尾井町三番地　金澤隆子
京橋桶町廿五番地　鹿兒島きく子
芝西久保城山町一番地　河村裕子
赤坂青山南町六丁目卅五番地　加藤つる子
牛込新小川町二丁目十番地　川田光子
本郷田町廿八番地　加藤ひて子

（以下次號）

○死亡月表　東京府に於て調査せる昨二十六年十二月中東京府下十五區九郡に於ける死亡者病症及年齢別は左の如し(公報)

病症別	
傳染病性	
徽毒	五〇
實布的里亞	三六
腸窒扶私	三二
脚氣	一七
僂麻質私	一三
痘瘡	七
丹毒	五
膿毒症	四
產蓐熱	四
間歇熱	二
百日咳	一
計	一七一
發育及營養的病	
老衰	一四四
發育不全	一三四
胃癌	四三
全身水腫	三八
癌腫瘍	三〇
營養消耗	一四
腺病	一〇
貧血	五
造構誤常	四
乳癌	四
壞疽	三
糖尿病	二
痛風	一
癲病	一
萎黃病	一
計	四三四
皮膚及筋病	
臍諸患	四
癰	三
皮下結締炎	二
其他	二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

水脈炎	一
漸進性筋肉萎縮	一
計	一三
骨及關節病	
關節炎	七
脊椎炎	四
骨瘍	三
骨炎	一
骨疽	一
計	一六
血行器病	
瓣膜病	四五
心臟內膜炎	二五
心臟痲痺	八
心臟肥大擴張	五
心囊炎	五
動脈疾患	四
心臟脂化	二
計	九四
神經系病	
腦膜炎	二五一
卒中	二〇三
小兒急癇	一〇一
腦充血	三一
破傷風	三一
癲狂	二三
腦水腫	一六
腦貧血	九
脊髓炎	八
腦振盪	六

（以下次號）

明治廿七年四月三日印刷
明治廿七年四月六日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎
印刷者　神田區小柳町十三番地　小高良造
印刷所　神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可第一金曜日發行　（定價金十錢）